

人文社会科学部 人文社会科学科 ディプロマ・ポリシー

■人文社会科学科

【対課題】

- ・グローバル社会と地域に関する人文社会科学の幅広い教養、複眼的な分析・考察に必要な言語・文化・社会、社会制度の基本的な構造に関する専門知識を身につけ、活用できる。
- ・人文社会科学諸分野の領域横断的思考を身につけて、個々の専門分野の成果と課題を批判的に考察する一方、現実に行き起こっている様々な社会問題の基本的な構造を理解し、主体的な判断力を身につけて、活用できる。
- ・文献資料・データの分析法、外国語の運用能力、多様なメディアによる表現能力、社会科学の調査・研究手法を駆使することにより、学修・研究の成果を、グローバルかつローカルな課題の解決のために発信することができる。
- ・数理・データサイエンス・AIに関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・地域文化や地域社会の過去・現在・将来のグローバルあるいはローカルな課題に対し、多様な観点からの学問的知見を積極的に用いて研究し、得られた成果を社会に発信することができる。

【対自己】

- ・グローバル社会における諸問題に関心を持ち、局所的なミクロレベルから全体的なマクロレベルに至る多様な視座から比較・検討することで課題解決を实践する態度を身につけ、得られた知識を個人のためのみに利用するのではなく、社会全般に還元する観点から活用できる。

【統合・働きかけ】

- ・異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。
- ・特定の問題に関する「問い」と「答え」を「言葉」によって論理的に表現することができる。

■人文科学コース

【対課題】

- ・哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等に関する専門知識を身につけ、時代や地域に固有の文化や、時代や地域を越えた普遍的な人間の特性を比較検討しながら理解することができる。
- ・哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果と課題を批判的に考察する思考力を身につけ、活用できる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等に関する知識を複数の分野にわたり修得している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等のいずれか一つの分野の専門性を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えて普遍的な人間の特性について、その基本的な構造を理解している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果を利用することができる。

〔論理的思考力〕

1. それぞれの時代・地域に固有の文化や、それを越えて普遍的な人間の特性を、比較検討しながら理解している。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の成果を批判的に考察する思考力を修得し、活用することができる。

〔課題探求力〕

1. 課題の解決に取り組む際、学んだ知識・技能を活用することができる。
2. 哲学、心理学、歴史学、考古学、地理学、文学、言語学等の人文科学の課題を批判的に考察する思考力を修得している。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使することができる。
2. 人文科学の研究で用いる基本的な手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

【対人】

- ・文献資料・データの分析法、レポート・卒業論文の作成法、資料保存法等の専門知識に裏付けられた研究方法を駆使して、地域文化や地域社会に関する学修・研究の成果を発信することができる。

〔表現力〕

1. 研究によって得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。
2. 学修・研究の成果を的確かつ客観的に示することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。
2. ディスカッションを通して、互いの学修・研究の内容を知り、高め合うことができる。

〔協働実践力〕

1. 文化や社会において生じる問題など、人間に関わるさまざまな課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。
2. 周囲と協力するにあたって、自らの役割を意識し、責任をもって発言・行動することができる。

【対自己】

- ・地域文化や地域社会の過去・現在・将来のグローバルあるいはローカルな課題の解決に取り組む態度を身につけ、実践する。

〔自律力〕

1. 学問に対して真摯に取り組む姿勢を身につけている。
2. 研究のプロセスを客観的に認識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的な基準を満たしながら研究する姿勢を身につけている。
2. 学修・研究の成果を社会に還元する必要性を理解している。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。

■国際社会コース

【対課題】

- ・ 多元化し複雑化するグローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を身につけ、その知識を局所的なミクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。
- ・ 多元的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力と人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を涵養し、グローバル社会における諸問題を批判的に考察し、主体的に判断する力を身につけ、活用できる。
- ・ 外国語の運用能力を身につけ、異文化および自文化への理解を深める。

〔専門分野に関する知識〕

1. グローバル社会の諸相に対応する上で必要十分な、言語・文化・社会に関する専門的知識を修得している。
2. 得られた知識を局所的なミクロレベルから全体的なマクロレベルに至る連続体として理解し、活用できる。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 人文・社会・自然の各分野にわたる幅広い教養を修得している。
2. 幅広い教養を専門分野の知識と結びつけることができる。

〔論理的思考力〕

1. 多元的価値に基づく複合体としての文化・社会における言語・文化・社会への深い洞察力を修得している。
2. 人文社会科学の領域横断的・複眼的な思考力を修得し、活用することができる。

〔課題探求力〕

1. グローバル社会における諸問題を批判的に考察することができる。
2. グローバル社会における諸問題について主体的に判断する力を修得し、それを活用することができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 外国語の運用能力を修得している。
2. 異文化および自文化への深い理解力を修得している。
3. 数理・データサイエンス・AI に関心を持つとともに、これらを適切に理解し活用するための基礎的な能力を備えている。

【対人】

- ・言語コミュニケーションや異文化および自文化、グローバル社会の問題を主体的に考察・判断するために、獲得した成果や意義を発表し、他者と協働することができる。
- ・異文化および自文化への理解を深め、人文社会科学の領域横断的な思考を通じて獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を身につけ、活用できる。

〔表現力〕

1. 獲得した成果や意義を、口頭・文章あるいは多様なメディアによって表現する能力を修得し、それを活用することができる。

〔コミュニケーション力〕

1. 日本語あるいは外国語で他者と意思疎通を図ることができる。

〔協働実践力〕

1. 他者との協働によって様々な問題について多様な視座から比較・検討し課題解決の方法を探ることができる。

【対自己】

- ・グローバル社会における諸問題に関心を持ち、局所的なミクロレベルから全体的なマクロレベルに至る多様な視座から比較・検討することで課題解決を実践する態度を身につけ、活用できる。

〔自律力〕

1. グローバル社会における諸問題について主体的に関心をもつことができる。
2. 学習のプロセスを意識し、計画・実行にあたってみずからをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 文献・資料の引用など研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 特定の課題について「問い」をたて、資料を批判的に検討することによってその論理的な「答え」を見出すことができる。

2. 特定の問題に関する「問い」と「答え」を「言葉」によって論理的に表現することができる。

■社会科学コース

【対課題】

- ・経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学を幅広く学び、かつ特定分野を段階的に集中して学び、当該分野の専門性を身につける。社会科学で用いる研究手法だけでなく、情報解析のツールの利用方法を習得することで社会制度の基本的な構造を多角的に検討し、理解することができる。
- ・現実に起こっている様々な社会問題の基本的な構造を理解し、必要な知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

〔専門分野に関する知識〕

1. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学に関する知識を複数の分野にわたり修得している。
2. 経済学とその他経営学・会計学・法学・政治学・社会学のいずれか 1 つの分野の専門性を修得している。

〔人類の文化・社会・自然に関する知識〕

1. 現実に起こっている社会問題を把握することができる。
2. 社会制度の基本的な構造を理解している。

〔論理的思考力〕

1. 社会問題の基本的な構造を理解している。
2. 社会で生じている問題と社会制度の関係を把握することができる。

〔課題探求力〕

1. 現実に起こっている社会問題を観察し、課題設定ができる。
2. 学んだ知識・技能を動員して課題解決に取り組むことができる。

〔語学・情報に関するリテラシー〕

1. 現代社会における基本的な情報解析の手法を利用できる。
2. 社会科学で用いる研究手法を修得している。
3. 外国語のドキュメントを読み、その内容を理解する読解力を修得している。

【対人】

- ・多様な考え方をもつ人々と協力しながら研究を進め、その成果を社会に広く示すことができる。

〔表現力〕

1. 研究を通じて得た成果を示すための多様な技法・手段を修得している。

〔コミュニケーション力〕

1. 多様な考えをもつ人々の意見を聞き、意思疎通を図ることができる。

〔協働実践力〕

1. 社会における課題に対して、周囲と協力して解決に取り組むことができる。

【対自己】

- ・学問に対して真摯に取り組み、体系的に理解して、得られた知識を個人のためのみに利用するのではなく、社会全般に還元する態度を身につけ、活用できる。

〔自律力〕

1. 研究のプロセスを意識し、計画・実行にあたって自らをマネジメントすることができる。

〔倫理観〕

1. 得た知識を個人のためのみ利用するのではなく社会全般に還元する態度を身につけている。
2. 文献・資料の引用など、研究に際しての倫理的ガイドラインに即して研究する姿勢を身につけている。

【統合・働きかけ】

〔統合・働きかけ〕

1. 異なる価値観を持つ人々との議論や作業を通じて、自らの研究成果の質を高めていくことができる。